

平成 2 5 年度公立高等学校
みやぎ学力状況調査 **概要**

調査の概要等	P. 1
調査結果の概要と分析	P. 2
1 学力状況調査の結果と分析	
2 学習状況調査の結果と分析	
（ 1 ） 1 学年 学習状況等	
（ 2 ） 2 学年 学習状況等	
（ 3 ） 心身の健康状況・「志教育」に係る意識の変化等	
学力向上に向けた今後の取組	P. 1 3

平成 2 5 年 1 0 月

宮城県教育委員会

I 調査の概要等

第1学年

- (1) 生徒の学習状況等に係る意識調査を実施し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。
- (2) 公立（県立・市立）高等学校の78校の1年生，約15,200人を対象に，平成25年7月4日（木）から7月12日（金）までの間，各学校で実施（仙台市立は一昨年度より実施）

○学習状況調査(調査内容)

生徒の学習・生活状況及び震災後の心身の健康状況並びに「志教育」に係る意識の変化等

〔調査実施人数〕

意識調査回収人数 14,791人(回収率 約97%)

第2学年

- (1) 生徒の学力状況及び学習状況等に係る意識調査を実施し、各学校における学習指導及び進路指導の改善に役立てる。
- (2) 公立（県立・市立）高等学校の78校の2年生，約15,000人を対象に，平成25年7月4日（木）から7月12日（金）までの間，各学校で実施（仙台市立は一昨年度より実施）

①学力状況調査

〔調査実施教科〕

- ・国語，数学，英語の3教科
 - ・国語，数学，英語の作問に当たっては，高校1年次に学習した内容の基礎・基本と思考力・応用力を問う問題で構成し，平均正答率を50%と設定して作成
 - ・国語，数学，英語はそれぞれ共通問題に加え学校選択問題を設定
- ※学校選択A問題は基礎的・基本的な内容の設問、学校選択B問題は思考力・表現力・応用力をみる設問

〔調査実施人数〕

- ・国語 14,402人（A問題選択58校7,116人，B問題選択30校7,286人）
- ・数学 14,402人（A問題選択63校8,183人，B問題選択25校6,219人）
- ・英語 14,400人（A問題選択62校8,010人，B問題選択26校6,390人）

※学校数は全日制本校73校，定時制11校，分校3校，岩ヶ崎鶯沢校舎を1校の計88校として集計した。

②学習状況調査(調査内容)

生徒の学習・生活状況及び震災後の心身の健康状況並びに「志教育」に係る意識の変化等

〔調査実施人数〕

意識調査回収人数 14,383人(回収率 約96%)

Ⅱ 調査結果の概要と分析

1 教科に関する調査の結果

国語 共通問題正答率は、47.3%（前年度54.2%）

○ 基礎的・基本的な知識は身に付いているが、叙述に即して的確に読み取る力に課題

言語事項では、基本的な漢字の読み書きは定着しているが、慣用句や四字熟語、日本語の表現、文法についての理解が不十分である。現代文では、文脈に沿って語句の意味を捉え、内容を的確に読み取る力に課題がある。論理の展開の仕方や段落相互の関係を踏まえ、根拠を明確にして読み取る力に課題がある。古典では、基礎的・基本的な知識はある程度身に付いているが、文脈から登場人物の関係性や行為の主体を明らかにして、細部の出来事を整理しながら読み取る力に課題がある。

数学 共通問題正答率は、47.7%（前年度48.7%）

○ 基礎的・基本的な知識・技能は定着しているが、条件の読み取りや複数条件を組み合わせ思考する力に課題

基礎・基本については、数と式、二次方程式、二次不等式や三角比の定義等で一定の定着が見られるものの、絶対値記号の意味理解や命題の真偽判定等には課題が残る。また、二次関数については、グラフの状況进行分析し必要な条件を読み取ることや、必要な条件にもれがないかを吟味することが十分にできていない。適切な公式や定理を選択することや、複数の手順を経て考察する問題を解く力に課題がある。

英語 共通問題正答率は、47.0%（前年度41.2%）

○ 基本的な英語表現は身に付いているが、長文の要点や概要を把握する力に課題

リスニング問題と読解問題のいずれにおいても、普段の言語活動でよく使用される英語表現については、定着度合いが高い。しかし、聞いたり読んだりした内容を組み合わせで考えたり、異なる表現で言い表されたものを理解したりすることに関しては、力が不足している。関係副詞の用法が身に付いている一方、中学校段階の基本的な文法事項が十分身に付いていない生徒も散見される。

〈各教科の受験者数、共通問題の正答率等概要〉

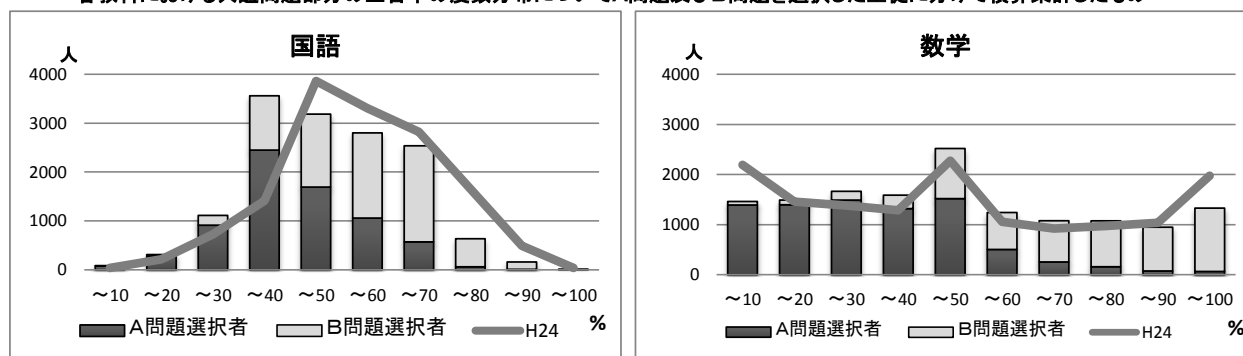
※学校数は全日制本校73校、定時制11校、分校3校、岩ヶ崎鶯沢校舎を1校の計88校として集計した。

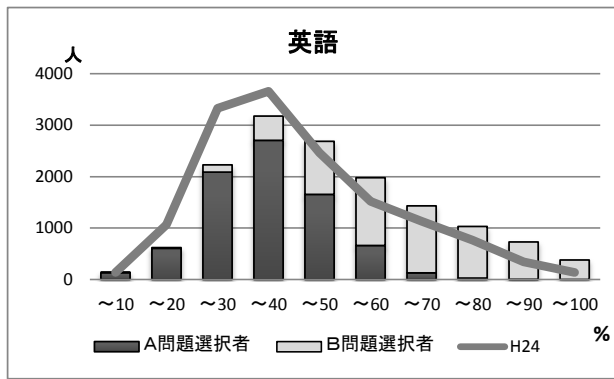
教科	国語		数学		英語	
	国語A	国語B	数学A	数学B	英語A	英語B
選択						
内容	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問	基礎的・基本的な内容の設問	思考力・表現力・応用力をみる設問
学校数	58	30	63	25	62	26
調査人数	7,116	7,286	8,183	6,219	8,010	6,390
共通問題部分の正答率	40.5 (47.4)	53.9 (60.6)	31.6 (31.6)	67.7 (71.8)	35.2 (31.7)	61.8 (54.5)
A・B選択者別の全体正答率	40.5 (47.4)	51.4 (56.9)	23.7 (23.9)	44.6 (54.2)	34.8 (30.9)	58.3 (51.8)

※（ ）内は前年度の正答率

図1-1 共通問題の正答率別度数分布

各教科における共通問題部分の正答率の度数分布についてA問題及びB問題を選択した生徒に分けて積算集計したもの



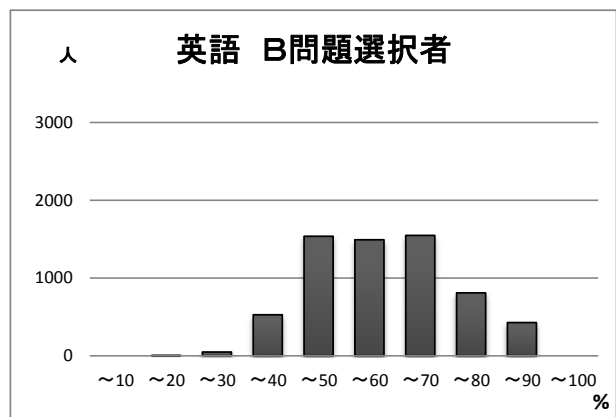
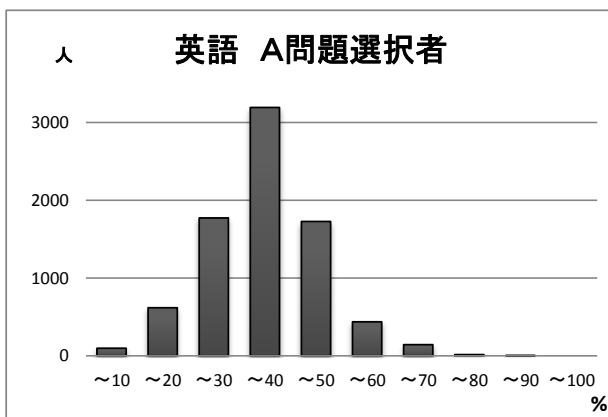
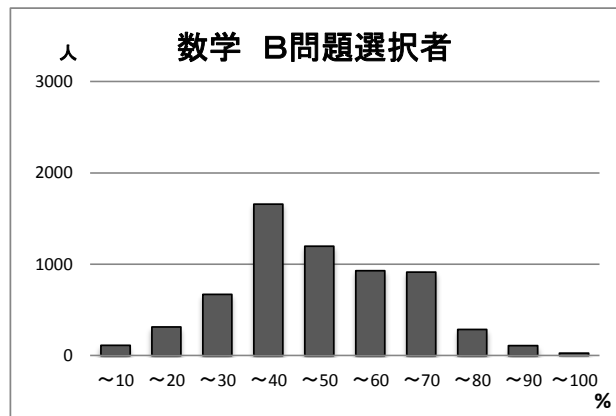
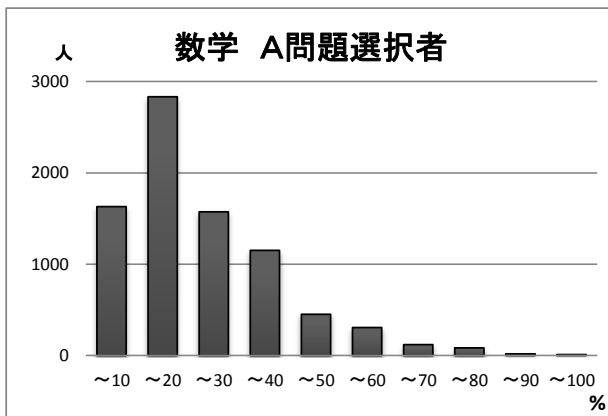
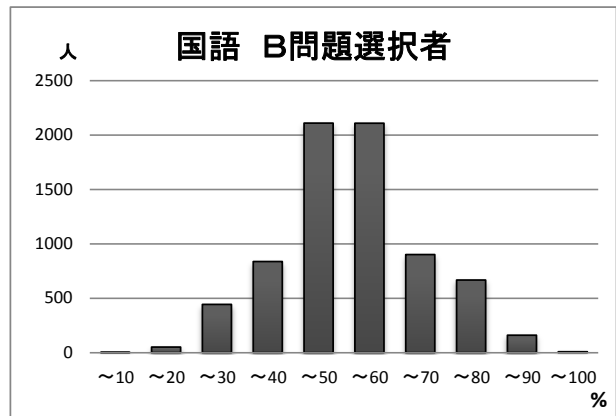
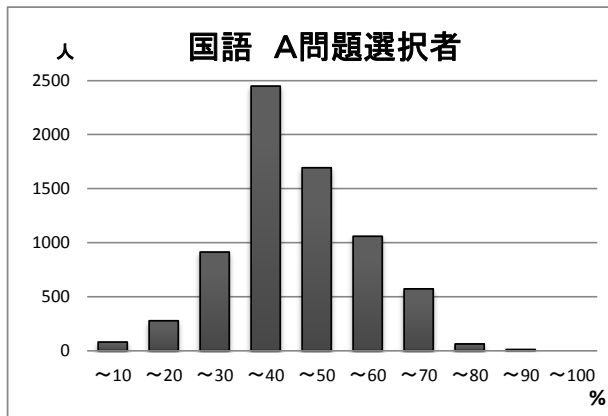


〈分析〉

- 国語は昨年度よりも正答率が下がった。論理的な文章の叙述に即した読み取りや、古典の人物関係を明確にした読み取りができていないことが要因と考えられる。
- 数学は正答率の高い生徒と低い生徒に分散している。これは、基礎・基本の定着度に分野ごとの差があることや、計算の習熟に差があることが原因と考えられる。
- 英語はA問題選択者の高正答率が非常に少ない。語学の習得には多くの時間を要するため、日々学習している者と、そうでない者の二極化が進んでいる。

○3教科ともB問題選択者は正答率が高く、基礎的・基本的な力がある程度身に付いていると考えられる。

図1-2 各教科の正答率度数分布
各教科とも、共通問題部分を含めた全問題についての正答率の度数分布



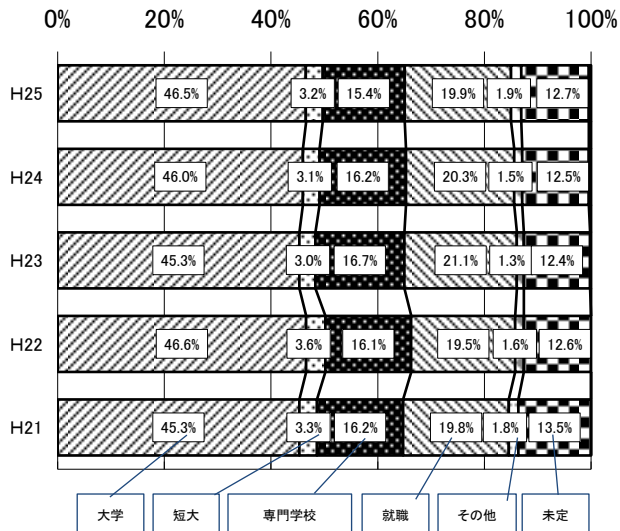
2 学習状況調査の結果と分析

(1) 1学年 学習状況等

① 進路希望 (【Q1】)

→ 大学や短大への進学希望は微増、震災前の水準に回復。

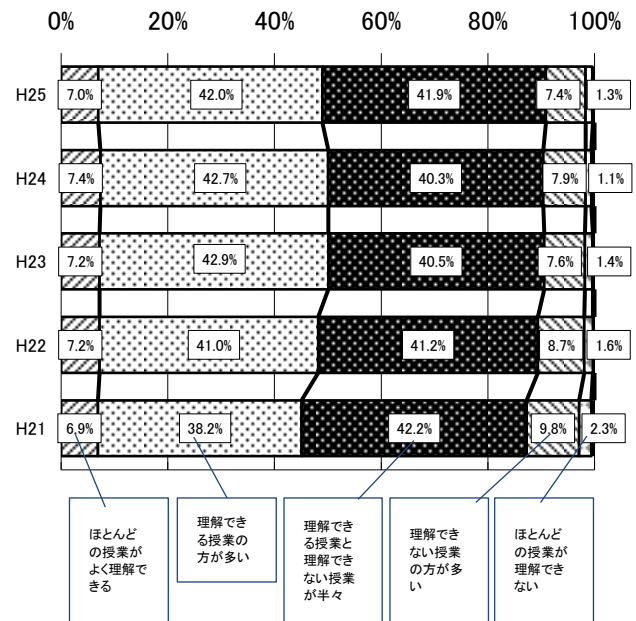
図2 進路希望先の割合の推移



② 授業理解度 (【Q4】)

→ 授業が概ね理解できている生徒は約半数。理解できない生徒の割合は減少傾向。

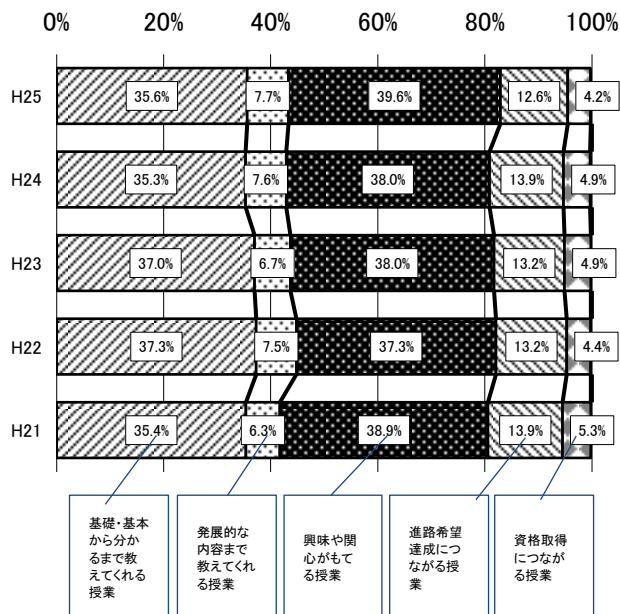
図3 授業理解度の割合の推移



③ 授業への期待 (【Q9 どんな授業を受けたいか】)

→ 興味関心がもてる授業、分かるまで教えてくれる授業が求められている。

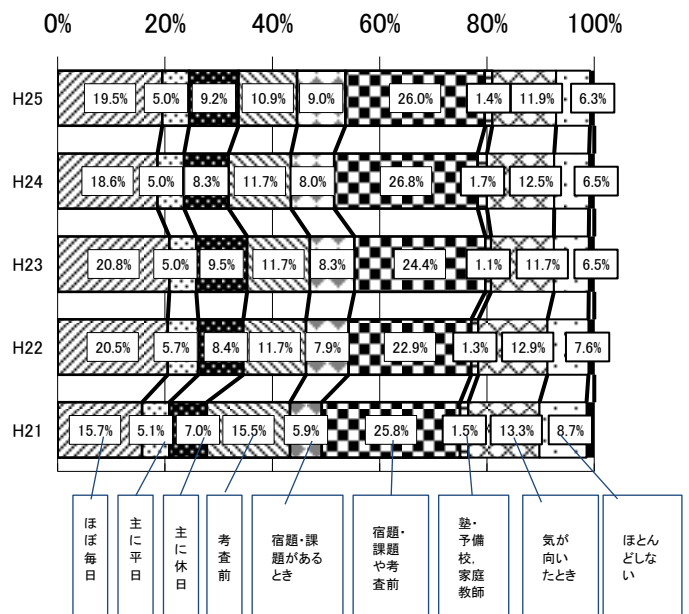
図4 生徒が授業に期待することからの割合の推移



④ 家庭学習のしかた (【Q12】)

→ ほぼ毎日している生徒の割合は増加、ほとんどしない生徒の割合は減少。一方、宿題・課題が出された時やテスト前に学習する生徒が約半数。

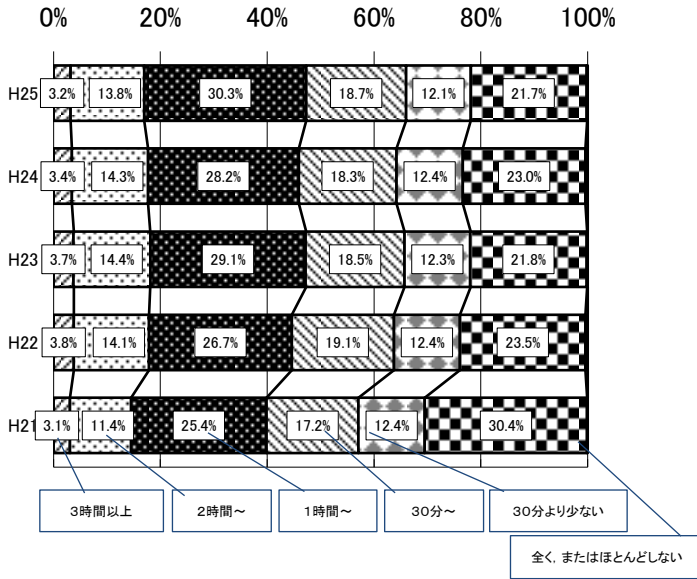
図5 家庭学習のしかたの割合の推移



⑤ 平日の学習時間(【Q10 授業時間以外の学習】)

→「全く、またはほとんどしない」割合は減少、他方「2時間以上」の割合も減少。

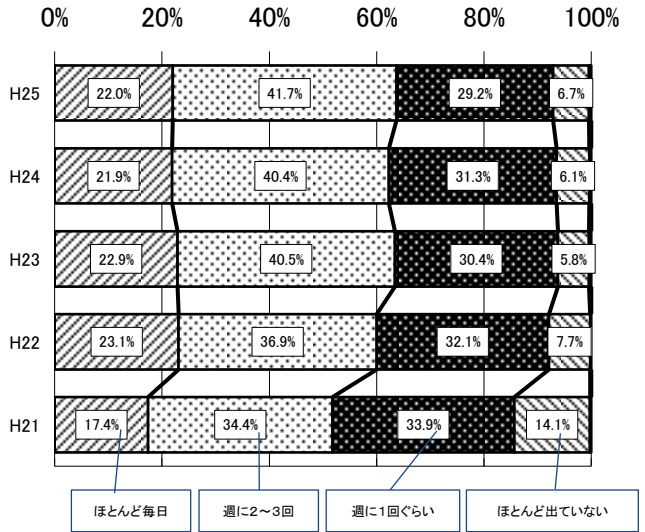
図6 平日の家庭学習時間の割合の推移



⑥ 宿題・課題の頻度(【Q7】)

→週に2~3回以上課されている割合が増加。

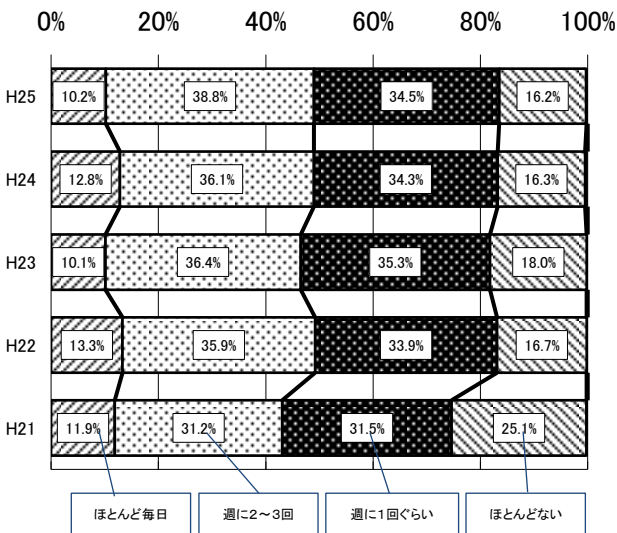
図7 宿題・課題が課される頻度の割合の推移



⑦ 小テストの頻度(【Q8】)

→週に2~3回以上実施されている割合はほぼ半数。

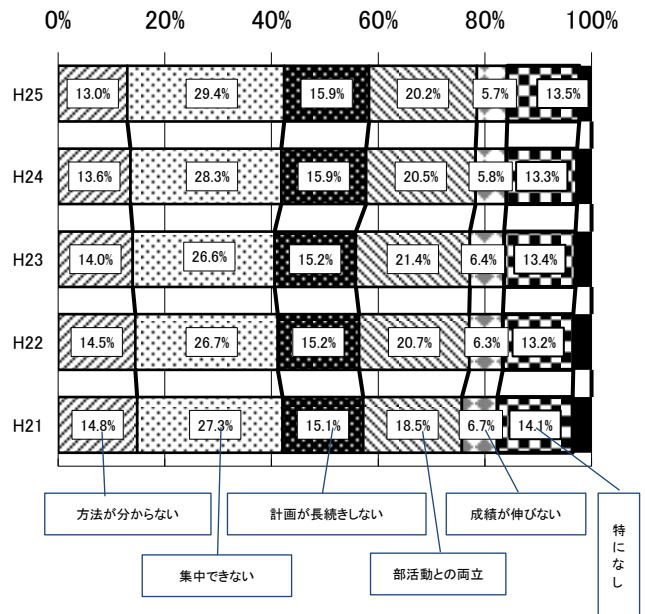
図8 小テストが実施される頻度の割合の推移



⑧ 家庭学習をする上での悩み(【Q14】)

→「集中できない」が最も多く、長続きしないと合わせると約半数に迫る。

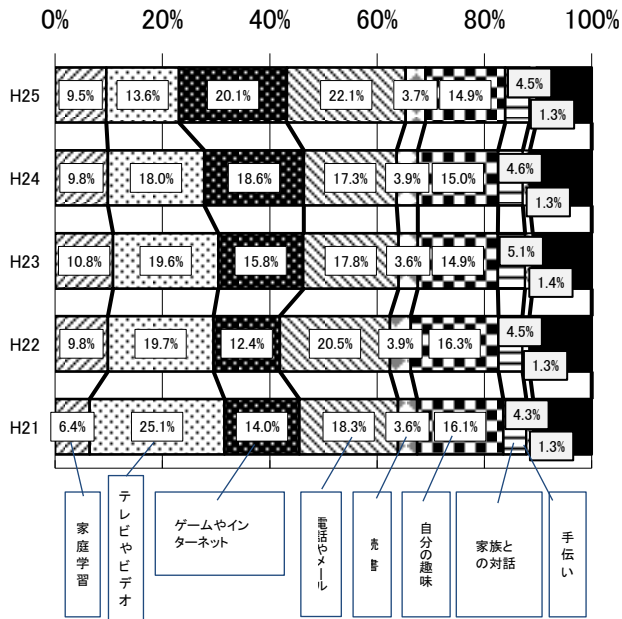
図9 家庭学習をする上での悩みの割合の推移



⑨ 平日の生活(【Q16 家で最も時間をかけていること】)

→「電話やメール」、「ゲームやインターネット」が急増。

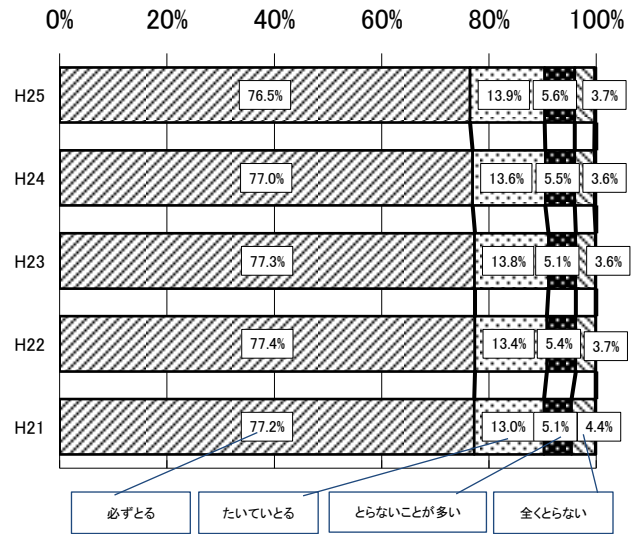
図10 平日に最も時間をかけていることの割合の推移



⑩ 朝食摂取の習慣(【Q15】)

→「必ずとる」または「たいていとる」生徒は9割以上、
「まったくとらない」は微増。

図11 朝食摂取習慣の割合の推移



(2) 2学年 学習状況等

① 進路希望 (【Q1】)

→ 大学や短大への進学希望は微増，震災前の水準に回復。未定は1年時から半減。

図12 進路希望先の割合の推移

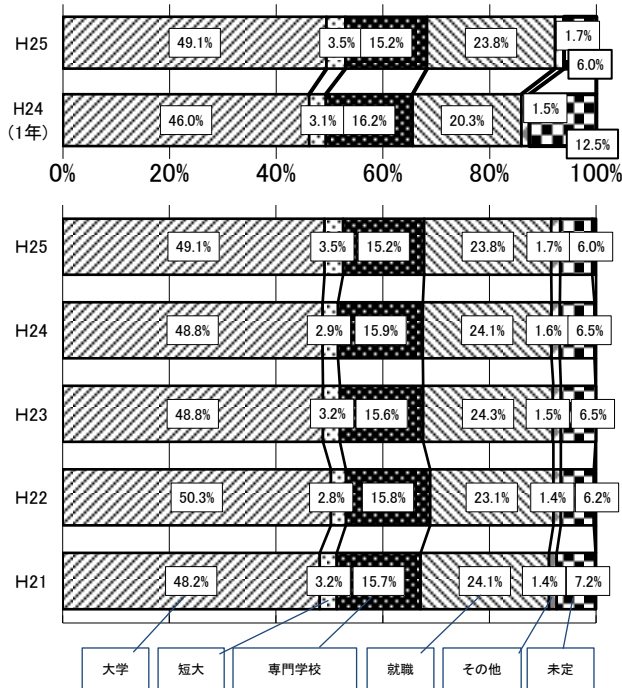
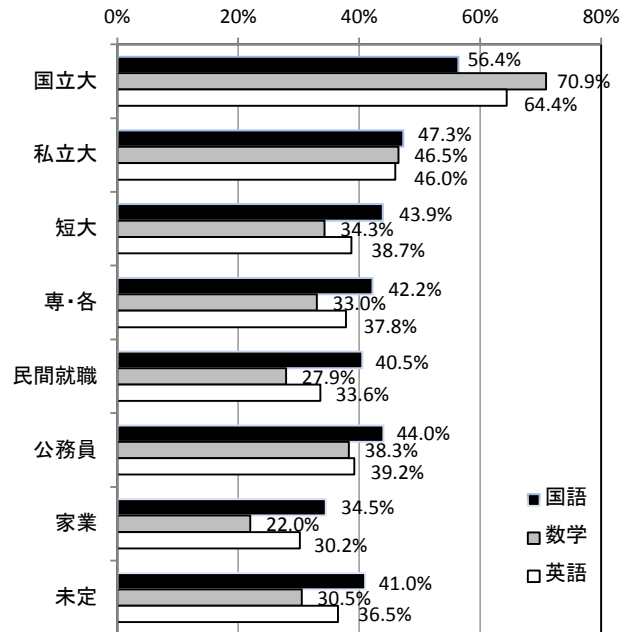


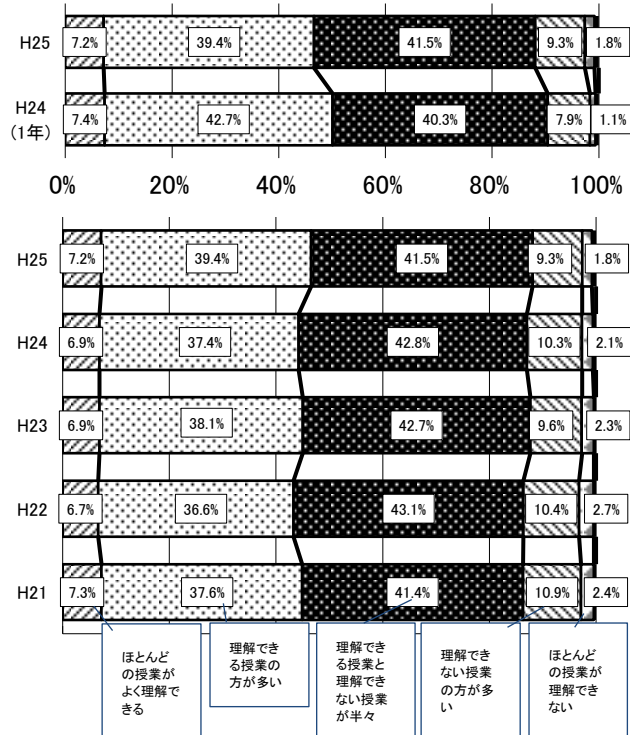
図13 進路希望別の共通問題正答率



② 授業理解度 (【Q4】)

→ 授業が概ね理解できる生徒の割合は増加，1年時比では減少。

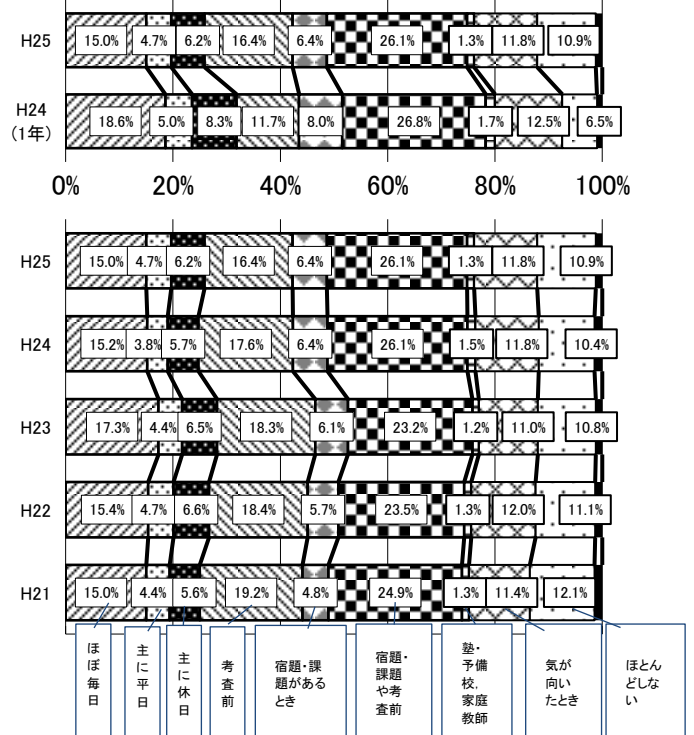
図14 授業理解度の割合の推移



③ 家庭学習のしかた (【Q12】)

→ 宿題・課題が出された時やテスト前に学習する生徒が約半数。ほとんどしない割合は1年時比では増加。

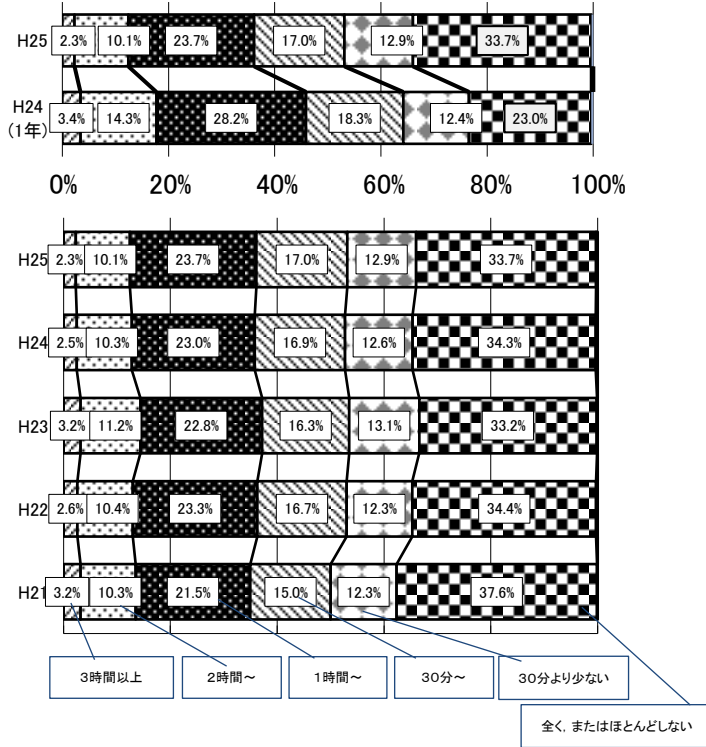
図15 家庭学習のしかたの割合の推移



④ 平日の学習時間(【Q10 授業時間以外の学習】)

→ 全く、またはほとんどしない生徒は微減も、1年時に比べ学習時間は大幅に減少。

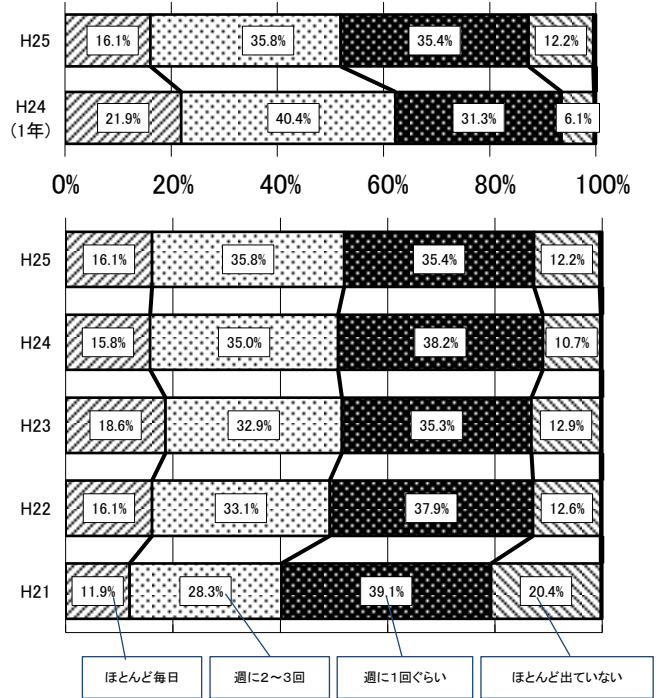
図16 平日の家庭学習時間の割合の推移



⑤ 宿題・課題の頻度(【Q7】)

→ 週に2~3回以上の割合が増加。

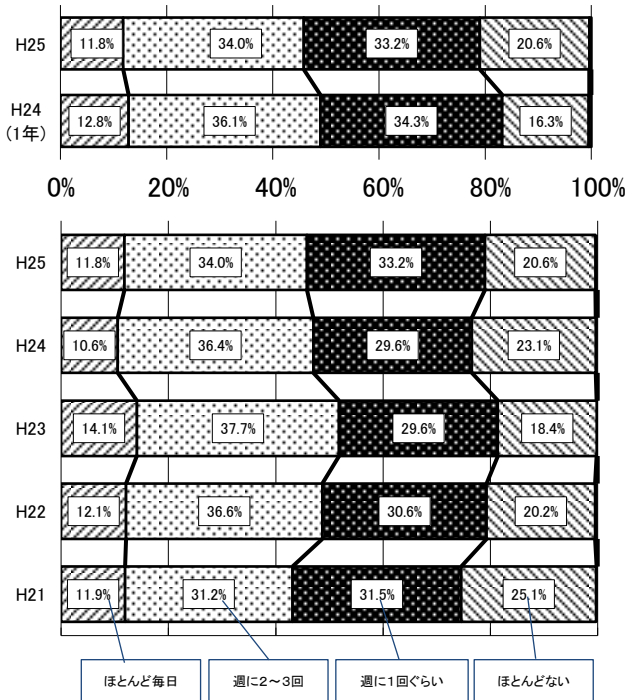
図17 宿題・課題が課される頻度の割合の推移



⑥ 小テストの頻度(【Q8】)

→ 週に2~3回以上実施されている割合は、ほぼ半数。

図18 小テストが実施される頻度の割合の推移



平日2~3時間の家庭学習時間を確保すること、宿題や小テストの頻度を上げることが、学習内容の定着につながっている。

図19 平日の家庭学習時間と共通問題正答率の関係

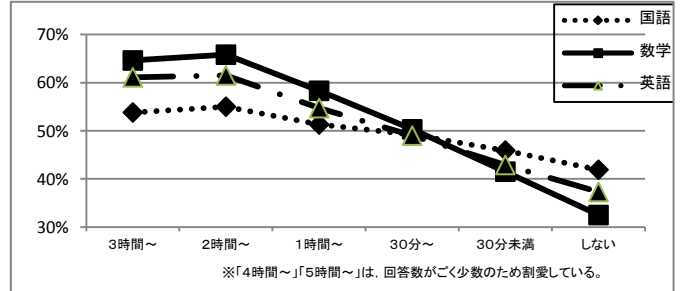


図20 宿題・課題の頻度と共通問題正答率の関係

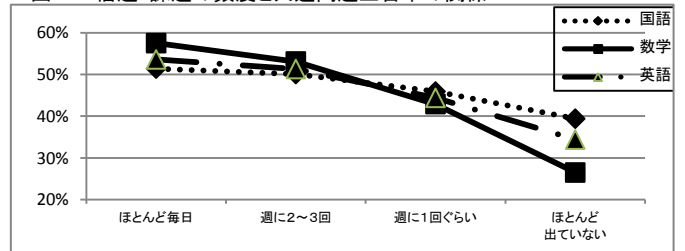
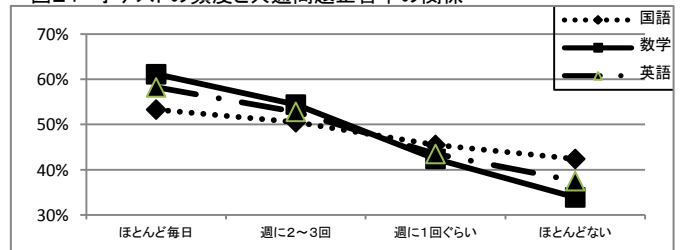


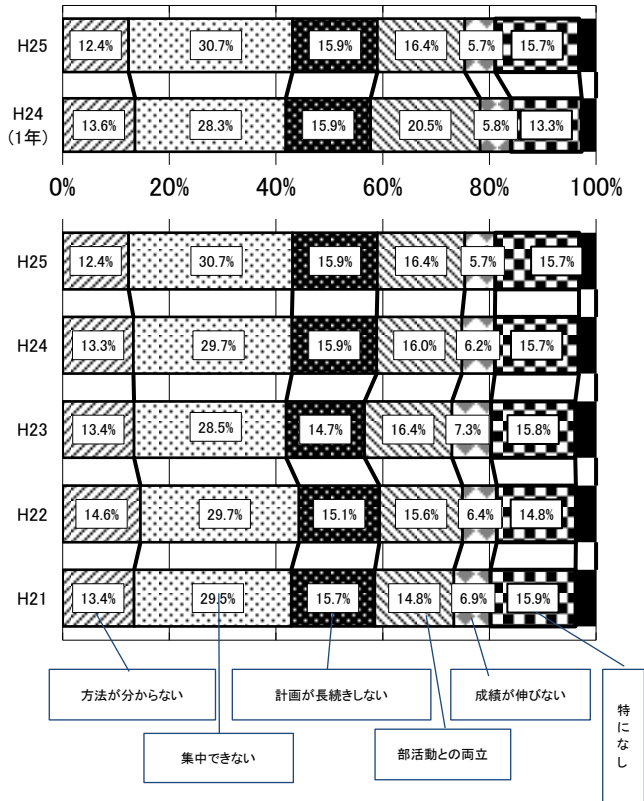
図21 小テストの頻度と共通問題正答率の関係



⑦ 家庭学習をする上での悩み(【Q14】)

「集中できない」が最も多く、長続きしないと合わせてと約半数。「集中できない」は1年時より増

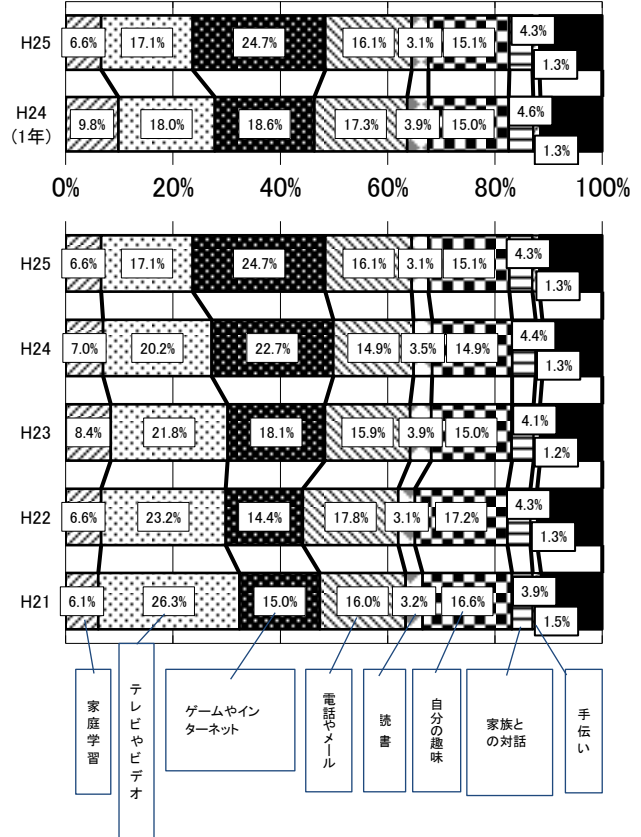
図22 家庭学習をする上での悩みの割合の推移



⑧ 平日の生活(【Q16 家で最も時間をかけていること】)

「ゲームやインターネット」、「電話やメール」の割合が増加。

図23 平日に最も時間をかけていることの割合の推移



⑨ 朝食摂取の習慣(【Q15】)

「朝食をきちんと食べる生徒が1年時比で減少。」
「朝食摂取習慣と学習成果の関係にも注意。」

図24 朝食摂取習慣の割合の推移

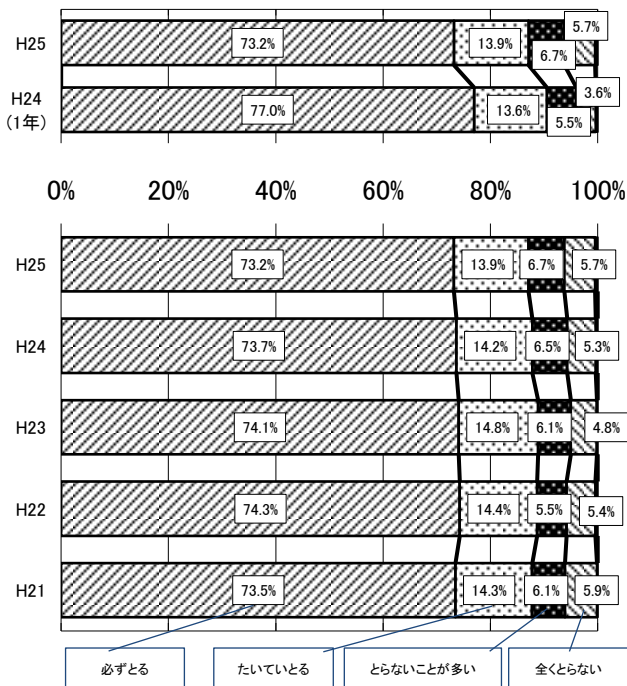
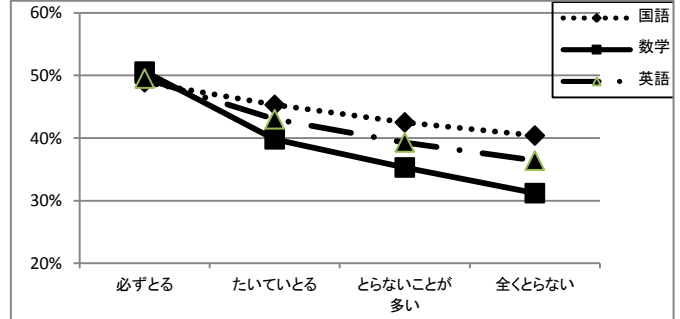


図25 朝食摂取習慣と共通問題正答率の関係



(3) 心身の健康、「志教育」に係る意識調査

選択肢の内容(各設問共通)

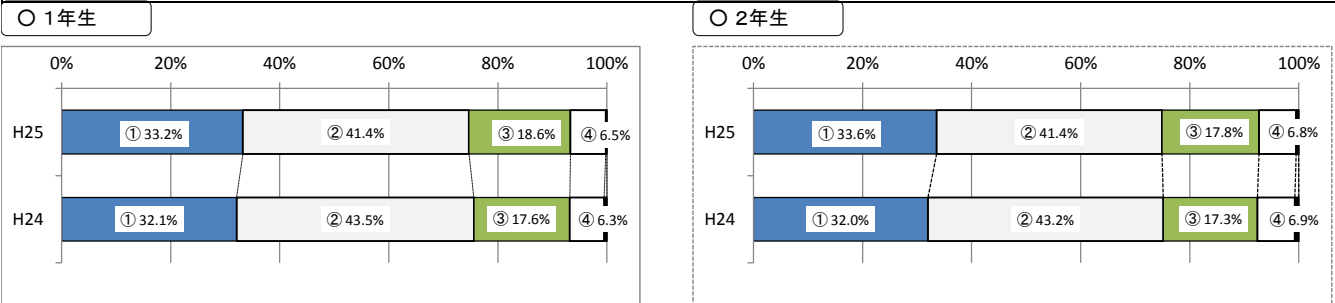
①当てはまる	②どちらかといえば、 当てはまる	③どちらかといえば、 当てはまらない	④当てはまらない	無回答
--------	---------------------	-----------------------	----------	-----

※ 無回答割合の表示は割愛している

①震災後の心と体の安定について (Q27, 28, 30)

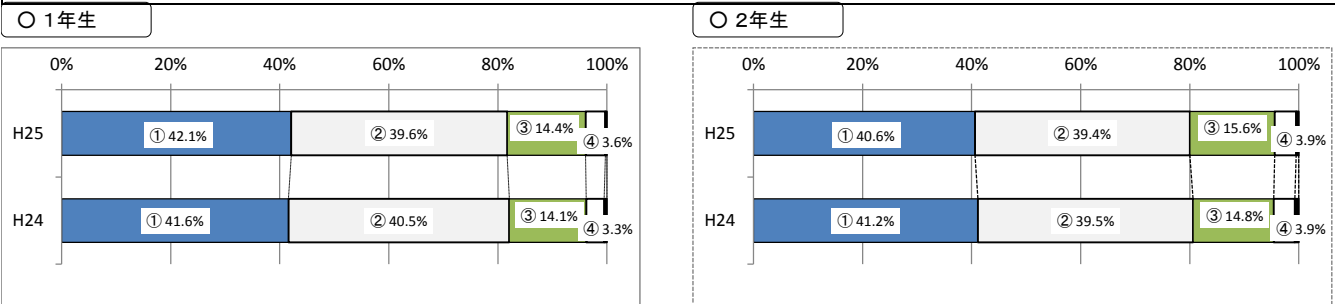
【生活習慣について：Q27 毎日同じくらいの時刻に寝ている】

・睡眠の様子からは生活習慣はほぼ安定しているが、就寝時間が一定しない生徒も25%程度いる。



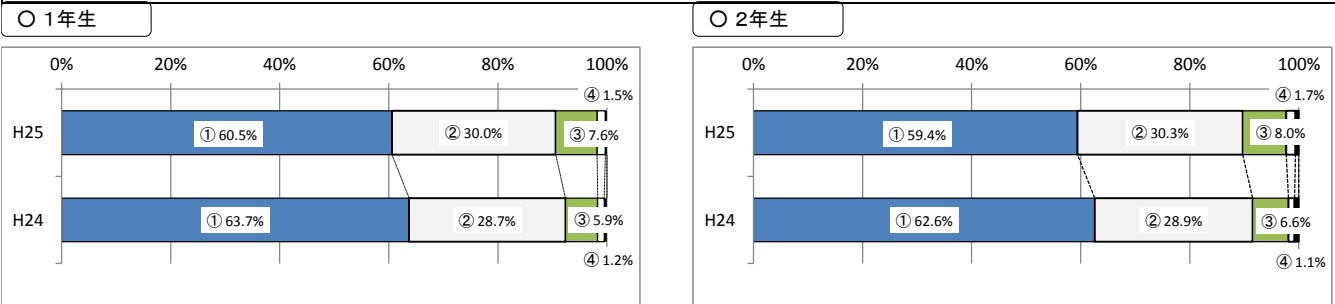
【体調管理について：Q28 体調はよい】

・体調管理は概ね良好だが、肯定的回答の割合は前年度比で減少（2年生は1年時比でも減少）しており、注意深く見守る必要がある。



【食生活について：Q30 食欲はある】

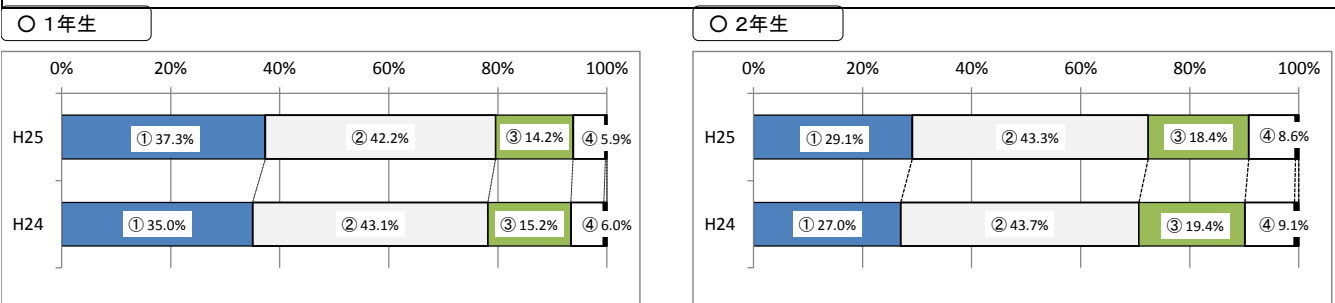
・9割を超える生徒が食欲があると回答しているが、昨年度と比較すると、1・2年生とも減少している。



②震災後の学校生活について (Q31, 41, 59)

【学校生活について：Q31 学校生活に充実感や満足感を感じている】

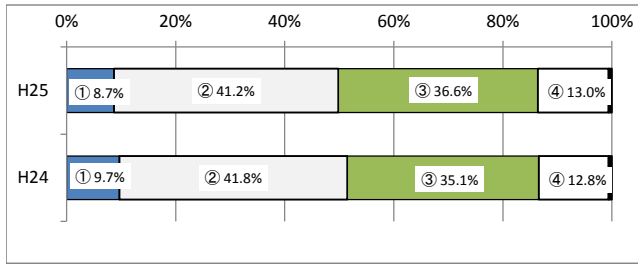
・学校生活に充実感等を感じているものが8割いる一方、2年生は1年時より減少している。



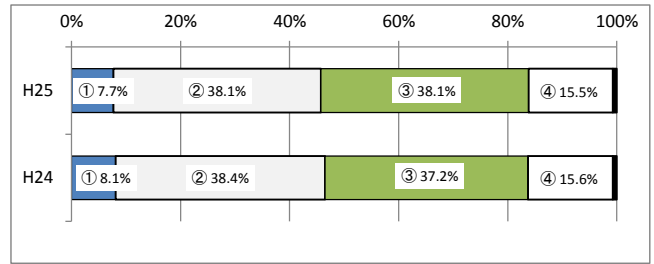
【学習について：Q41 集中して勉強できている】

・勉強に集中できている生徒は約半数、できていない生徒の割合が、1・2年生とも昨年度より増えている。

○ 1年生



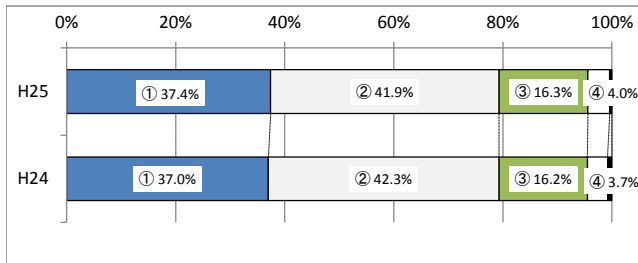
○ 2年生



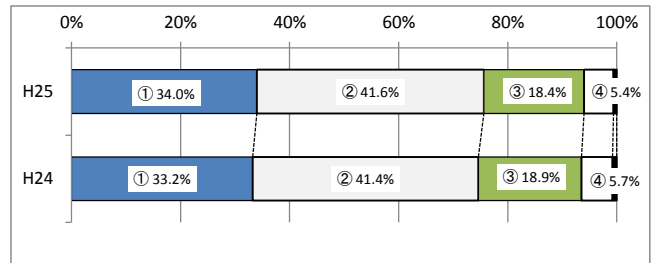
【学校行事について：Q59 クラスや学校の行事等に積極的に取り組んでいる】

・学校の行事等に積極的に取り組んでいると回答した生徒は、2年生において昨年度よりも増えている。

○ 1年生



○ 2年生

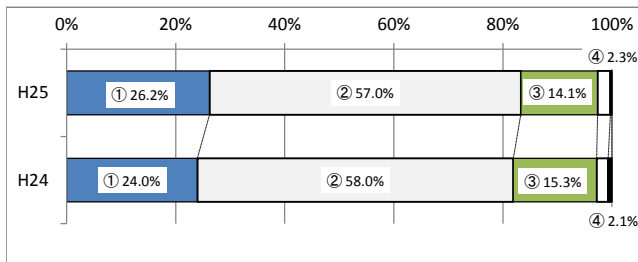


③ 「志教育」に係る意識の変化について1 (Q35, 45, 60)

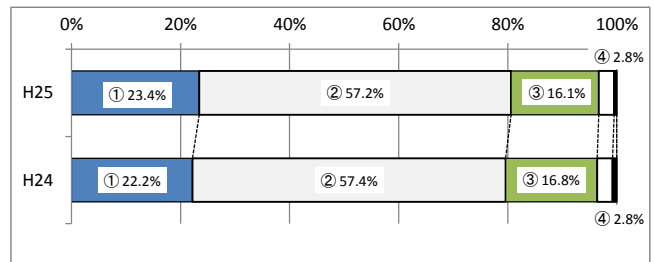
【他者理解について：Q35 人が困っている時は、進んで助けるようにしている[かかわる]】

・進んで助けるようにしている生徒の割合は8割超、1・2学年とも昨年度よりも増えている。

○ 1年生



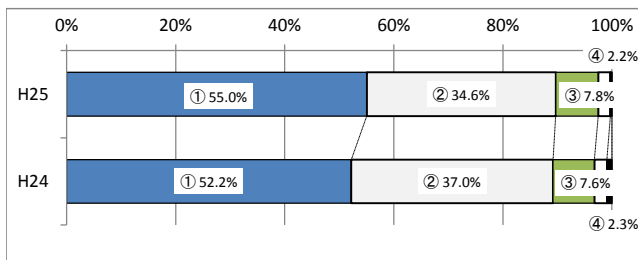
○ 2年生



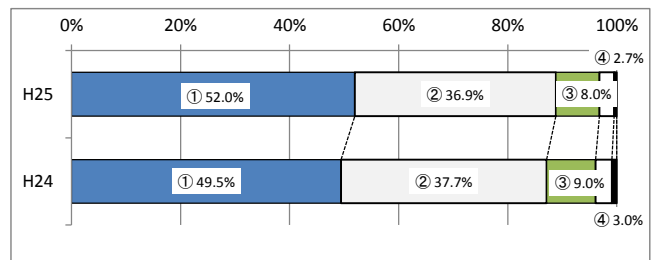
【志について：Q45 人の役に立つ人間になりたいと思っている[もとめる]】

・人の役に立つ人間になりたいと思っていると回答した生徒は、9割、1・2年生とも昨年度よりも増えている。

○ 1年生



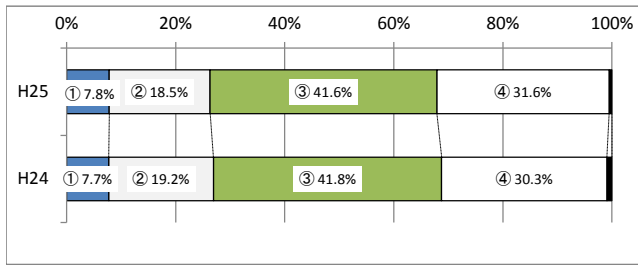
○ 2年生



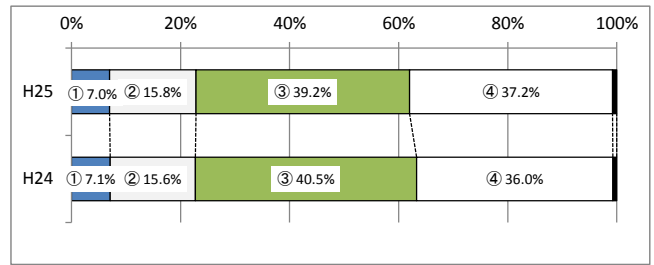
【社会貢献について：Q60 ボランティア活動や地域の活動に進んで参加している [かかわる・はたす]】

・ボランティア活動や地域の活動に進んで参加していると回答した生徒の割合は3割弱、減少傾向にある。

○ 1年生



○ 2年生

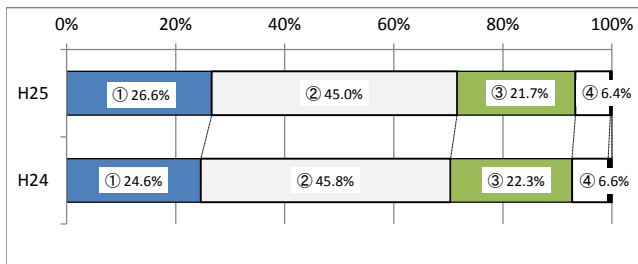


④「志教育」に係る意識の変化について2 (Q49, 57, 58)

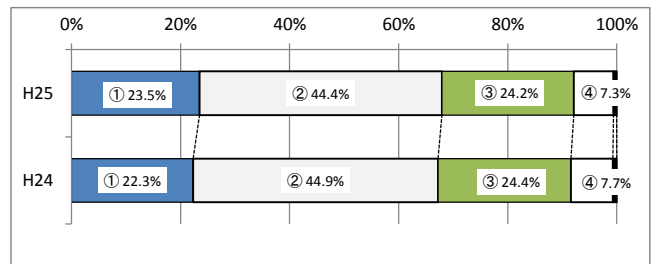
【自己理解について：Q49 自分の個性や適性が分かっている [もとめる・自己理解]】

・自分の個性や適性が分かっていると回答した生徒の割合は約7割、1・2年生とも増加している。

○ 1年生



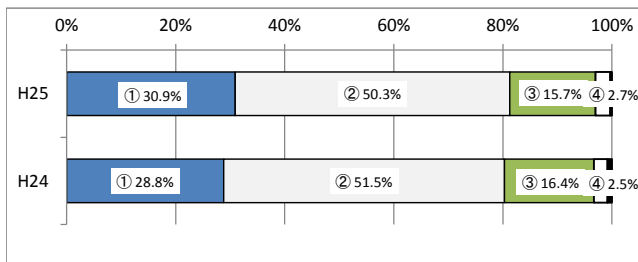
○ 2年生



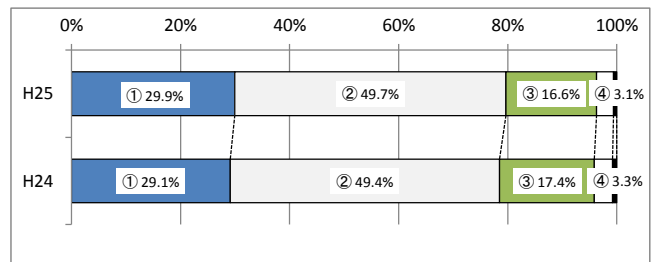
【勤労観・職業観について：Q57 働くことの意義を理解している [はたす・もとめる]】

・働くことの意義を理解していると回答した生徒の割合は約8割、1・2年生とも増加している。

○ 1年生



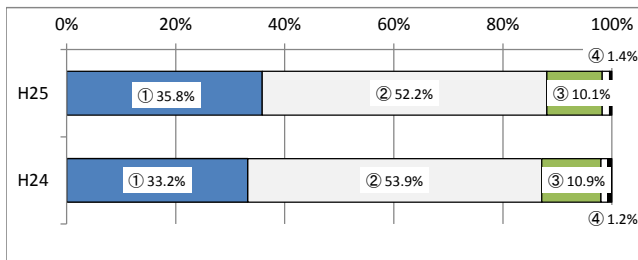
○ 2年生



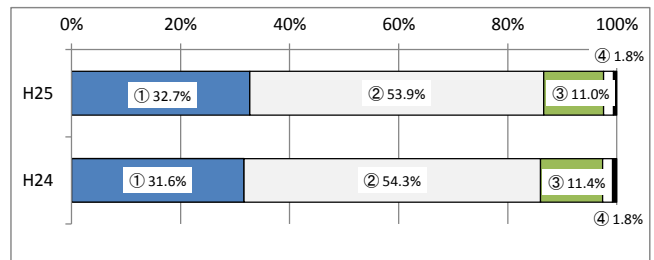
【有用観について：Q58 自分の役割に責任を持って行動している [はたす・もとめる]】

・自分の役割に責任を持って行動していると回答した生徒の割合は8割強、1・2年生とも増加している。

○ 1年生



○ 2年生



Ⅲ 学力向上に向けた今後の取組

【各学校の取組】

授業の質の向上と家庭学習習慣の確立に向けた取組により「確かな学力」の育成を目指す。

○授業改善の推進

授業理解度は上昇傾向にあるが、授業が理解できないとする生徒が半分程度いることから「分かる授業」「考えさせる授業」の実践など授業改善に向けた取組の一層の充実が望まれる。

○家庭学習時間の確保

学習記録簿の活用、家庭学習計画立案の指導、毎日の適度な量と質の宿題、授業における小テストの実施などの工夫により、家庭学習の習慣付けのための取組の継続が望まれる。

○「志教育」の充実、様々な学習機会の提供

授業や総合的な学習の時間など、あらゆる教育場面を効果的に利用しての「志教育」の推進、朝自習や朝読書、放課後学習会など、様々な学習機会を提供する取組の継続が望まれる。

○家庭と学校との連携

家庭学習上の悩みとして「家庭学習に集中できない」と答える生徒の割合が多いことから、個別面談やカウンセリングの実施に加え、家庭と学校とのより一層の連携強化が望まれる。

【県教育委員会の取組】

研修会等による教員の資質向上と各種事業の展開により高校生の「学力向上」を支援する。

○調査の継続的实施

学力状況調査、意識調査を継続的に行い、状況を正確に把握し続ける。

○学力向上施策の推進

授業力向上事業、進学重点校学力向上事業等の学力向上事業を推進し、各学校における学力向上に向けた取組を支援する。

○教員の資質向上施策の推進

機関研修の充実、校内研修会の開催支援策の充実により、教員の資質向上を図る。

【全体的な取組】

